

特集 With コロナ時代の在宅褥瘡ケア



歩ける人にもできる コロナ禍テレビ褥瘡

塚田邦夫

医療法人社団 研医学会 高岡駅南クリニック 院長

Point

- ▶ 2020年3月以降に歩ける人で低栄養でもない人に褥瘡が多発している
- ▶ 新しいタイプの褥瘡として「テレビ褥瘡」と名づけた
- ▶ 疼痛を訴えるところが骨突出部であり、発赤や皮下硬結があれば褥瘡であり、早期の対応が必要である
- ▶ できれば在宅訪問し、有効で実現可能な体圧分散法やずれ対策を提案する
- ▶ 高齢者は過度の外出自粛や孤食を避け会話を楽しむことが大切である

はじめに

2020年2月から新型コロナウイルスが徐々に広がってきて、新しい生活様式が叫ばれるようになりました。密集を避け、密接を避け、密閉を避ける生活です。とくに高齢者の重症化が連日報道され、不要不急の外出を避けるよう注意喚起されました。高齢者は恐怖のあまり、家に閉じこもり外出しなくなりました。

ここ富山県では大家族での生活が多いのですが、日中は高齢者のみとなり、多くは1人暮らしになります。人と会うことを避けて、楽しみはテレビ

を見ることです。椅子やベッドの上でじっと同じ姿勢でテレビを見る、あるいはパソコン画面に見入ることが日常となりました。

異変は3月から見られるようになりました。意識清明で歩ける人、また栄養状態もそれほど悪くない人に褥瘡が多発するようになったのです。これらを「テレビ褥瘡」と名づけました。

外出の自粛はまだまだ続きそうですし、今後新たな感染症も次々と出てくる可能性があります。「身体を動かそう」とか「可能な範囲で人と会うよ

うにしよう」などの動きは出ていますが、今でも頻度は少なくなったとはいえ、テレビ褥瘡は見られます。

テレビ褥瘡の症例を提示するとともに、注意喚起をし、対策も含めて紹介します。

一般的な褥瘡発症原理

褥瘡は寝たきりの人に多く発症します。人は皆高齢になると次第に動けなくなり、最後は寝たきりになって死を迎えます。寝たきりになって動かなくなると、使わない筋肉は萎縮し、やせて骨が出っ張ってきます。この部に高い圧力がかかります。また、寝たきりになると胃腸の動きが低下し、食欲がなくなって食事量の低下から低栄養状態に

なります。この低栄養と骨の出っ張り部の高い圧力は、褥瘡発症の原因になります。逆にいえば、よく動いて栄養状態もよく、やせていない人に褥瘡は起こりにくいといえます。

以下に示す7例は、歩くことができ低栄養でもない人に一定期間の間に発症した一連の褥瘡症例です。

症例1 60代女性

変形性腰椎症で外来リハビリ通院中。
2週間前から座位時に臀部の間がこすれて痛く、皮膚もカサカサするとのことで3月に診察を行いました。尾骨部の皮膚はガサガサしているのですが、痛いのは坐骨部で、同部を大きくつまむと、皮下に硬結がありました(図1)。

「これは床ずれですよ」と言うたびびっくりされました。聞くと、畳に薄い座布団を敷いた座椅子で、1日中テレビを見ているとのことでした。普通に歩いて外来通院している人で、HbA1c 6.3%とコントロール良好の糖尿病で、血清アルブミン値も4.0 g/dLと低栄養とはいえません。要介護状態にはほど遠く介護保険でのレンタルはできないことから、床ずれ用クッションを自費購入してもらいました。

1週間後の来院時には、「床ずれ用クッション使用でものすごく楽になった」とのことでした。



図1 左坐骨部褥瘡の皮下硬結